



阿波踊り



スダチ

徳島の味として知られるスダチ。他の柑橘類にはない独特のさわやかな風味と酸味で料理を引き立てます。小松島では、那賀川水系のきれいな水と温暖な気候を生かして品質の良いスダチを栽培しています。



やまもも

小松島市の木として街路樹にも用いられるやまもも。生産量県下一を誇るその実は、果実酒やジャム・ジュースなどの加工品としても人気です。独特の食感と甘酸っぱい味は、徳島県の初夏の味覚で「阿波やまもも」としてブランド化しています。



大鳴門橋

徳島県鳴門市と兵庫県あわじ市を結ぶ全長1,629m、主塔高144.38mの吊橋です。本州四国連絡橋の1つで1985年に9年の歳月をかけて完成しました。橋桁内には海面からの高さ約45mの遊歩道「渦の道」が作られ徳島県の観光名所となっています。



渦潮

鳴門市孫崎と淡路島との間の鳴門海峡では、潮の干満によって渦潮が発生します。春と秋の大潮時に最大となり、潮流時速20km、最大直径20mにも及ぶものがあります。満潮時と干潮時の前後約1時間半が渦潮の見ごろといわれています。

淡路島 (兵庫県)



大歩危・小歩危

「大歩危小歩危(おおほげこほげ)」は、2億年の時を経て四国山地を横切る吉野川の激流によって造られた約8kmにわたる渓谷で、大理石の彫刻がそそりたっているかのような美しい景観を誇ります。大歩危峡は、平成26年3月に国の天然記念物に指定されています。



祖谷のかずら橋

三好市西祖谷山村にある「祖谷のかずら橋」は、日本三奇橋のひとつとして知られ、国の重要有形民俗文化財に指定されています。重さ約5トンにもなるシラクチカズラで作られ、長さ45m、水面からの高さは14mもあります。



剣山(次郎笈=じろうぎゅう)

愛媛県の石鎚山に次ぐ四国第二の高峰(標高1,955m)で、日本百名山のひとつで古くから山岳信仰の聖峰としても知られています。一帯は剣山国定公園に指定されていて、山頂付近の剣山御神水は環境省により名水百選に選定されています。標高1,420mの登山口から登山道中央付近まで登山リフトが運行されています。

徳島県



榎原の棚田

上勝町の榎原の棚田は、平成11年「日本の棚田百選」に認定され、平成22年には徳島県で初めて「国の重要文化的景観」に認定されました。標高500m～700mの間に分布しています。



源義経像

義経伝説
小松島市は、*源義経が源平屋島の戦いの際の、四国の上陸地と伝えられています
元暦2年(1185年)、小松島
義経は讃岐屋島に本陣を構えた平家を討つため、手勢150騎を従え、嵐の中、摂津国渡辺(現在の大阪市北区)を5隻で船出。3日かかる行程をわずか4時間で阿波勝浦(現在の小松島市)に漂着。旗山(現在の芝生町)に源氏の白旗を掲げ、軍勢を立て直した後、地元新居見城主近藤六親家の兵を先導役に屋島へ向かいました。屋島平家の本陣を奇襲、あわてた平家軍は海に逃れます。源氏は、この奇襲作戦を成功させたことが屋島での戦いの勝利を確かなものとしたと伝えられています。

徳島◎



ステーションハーク

小松島ステーションパークのたぬき広場には、手をたたくと滝が流れる「高さ5m、胴回り5m、重さ5トン」の世界一大きなたぬきの銅像があります。たぬき物語の街小松島には、いたる所でたぬきが出て立ちを変えて迎えてくれます。

池田

小松島の名産



チリメン

「シラス」と呼ばれるイワシの稚魚を乾燥させたものがちりめんです。県下で7割の水揚げ高を誇る和田島漁協のちりめんは、漁獲から加工・出荷まで一貫生産されるため鮮度と品質が抜群です。



はも

夏の味覚として主に関西地方で人気の食材です。カルシウムやリン、タンパク質やビタミン類などの栄養素が豊富で、夏バテ解消に効果抜群です。小松島漁協は全国でも有数の漁獲高を誇っています。



ちくわ

ほのかに香る天然の竹に、新鮮な魚のすり身を巻き付けて焼き上げた小松島名産の竹ちくわ。源義経が絶賛したという言い伝えも残っています。



フィッシュカツ

白身魚のすり身にとがらしやカレー粉などの香辛料で味付けした小松島名産のソウルフード。徳島ではポピュラーな食べ物ですが県外では珍しくお土産に喜ばれます。



しいたけ

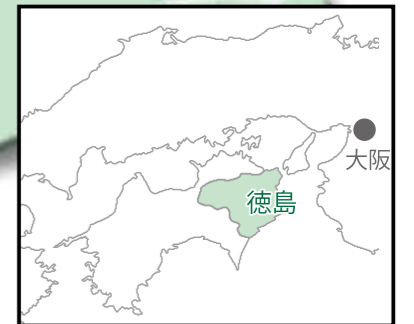
オガくずなどに栄養素を混ぜて固めた「菌床」と呼ばれる培地で育てられる椎茸。全国有数の出荷量を誇り、肉厚で味がよく、品質が安定しているのが特徴です。



金長神社

金長物語

天保年間(1833~1840)のこと、勝浦川をはさみ多くの狸が傷ついて死んでいた。日開野(小松島市)の金長(きんちょう)狸と津田浦(徳島市津田町)の穴門狸(ろくえもん)とが勢力を争い、阿波の狸が二派に分かれてここで戦いを繰り返していた。
金長は中田(小松島市)の洞穴に住んでいたが、ある時子どもたちに捕らえられ命を失うところを日開野の染物屋大和屋茂衛門に救われた。金長はその恩に報いるため大和屋の守り神となり大和屋は大いに繁盛した。
その後、金長は津田の穴門門のもとに弟子入りし頭角をあらわす。ある時、津田山のふもとに穴門音城に住んでいた阿波狸の総大将 穴門門が金長の婿にとすめるが、金長は恩を受けた大和屋への義理立てからこれを辞退する。これを逆意ありとった穴門門は兵を起して金長を攻めた。両軍激しく戦い、穴門門は傷を負って死亡し、勝った金長も死亡した。戦いはその後もお続けられ、両軍の犠牲者はおびただしい数にのぼった。これをみた四国の狸の総大将 讃岐の屋島太郎秀(やしまのたさぶろうはげ)が仲裁に乗り出して争いを鎮めたという。
この民話をもとに戦前から戦後にかけて「阿波狸合戦」「平成狸合戦ぽんぽこ」など一連の狸ものといわれる映画が制作され大ヒットしました。



大阪

徳島